

強者の戦略

強者の国語・〔現代文・解答解説編〕

実際に解答を作成してみると、「100〜120字」でまとめるのはかなり大変だったと思います。特に東大志望者は、「100〜120字にどれだけ内容を盛り込めるか」とともに、「日本語として不自然な表現になっていないか」を意識して解答を作成する練習をしましょう。なお、今回の文章の作者である折口信夫は柳田国男の弟子でもあった高名な国文学者・民俗学者・歌人で、「貴種流離譚」などの用語を作ったのも彼です。教養として、名前くらいは知っておきましょう。

【解答】

作者の心情を詳細に洞察・邪推するような傲慢で表面的な分析を避け、作者の人生や気分から生じながらも作者自身にさえ意識されない作品の深奥にある主題を明確化して、人間性や世界に関する新たな真理を見出し、それを普遍化することで世界の変革を図るもの。

【解説】

本文は前半で「歌壇に唯今、専ら行われて居る」批評（良くない批評）を批判し、中盤以降に「真の意味の批評」について論じている。

解答においては、まずは本文の「要約問題」であると考えて、本文の主張をまとめることを意識し、筆者の批判対象である良くない批評も解答に盛り込もう。そのポイントは、

- ・「分解的なく丁寧心切を極めて居る批評」（2段落・1〜2行目）
- ・「分解批評」（2段落・11行目）
- ・「宗匠の添削」（2段落・3行目）
- ・「思いあがった」（2段落・7行目）
- ・「師範家に似た気持ち」（3段落目・2行目）

強者の戦略

などの「分析的で傲慢」という本文内容に加えて、

・「良くない批評」と「真の批評」とは根本的に何が異なるのか（「内的な動揺」と「主題」は何が異なるのか）

という本質的な対比を意識することである。これについては、本文の、

・「作家の意識にはないことが多い」（4段落・9行目）・「竜宮の水」の比喻（6段落・3行目）

から、「心情||表面的／主題||深奥にある」という対比を引き出そう。

中盤後半（4段落以降）にある「真の意味の批評」については、

・「作家の個性と主題」（4段落・5行目）・「人生及び問題」（4段落・8と9行目）・「当来のもので出て来るもの」（4段落・14行目）

・「取り出して具現化」（4段落・9行目）・「意識の上の解説」（4段落・15行目）

などの「主題を明確化する」部分と、

・「人間及び世界の次の『動き』を促す」（4段落・15行目）・「人間生命の速やかならしめる」（5段落・2行目）・「新しい世の中を現じよう」（5段落・3行目）

などの「人間性や世界を変革していく」部分を指摘する。該当箇所を見つけるのは難しくないだろうが、全部の箇所を抜き出すと字数に入りきらず、また非常に曖昧で分かりづらい解答となってしまう。模範解答では「真理」という形でまとめているが、本文を「自分の言葉でまとめる」意識は重要なので意識して鍛えよう。